

Title	守永誠治教授退任記念号にあたって(守永誠治教授退任記念号)
Sub Title	
Author	藤井, 彌太郎
Publisher	
Publication year	1993
Jtitle	三田商学研究 (Mita business review). Vol.35, No.6 (1993. 2) ,p.i-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-19930225-04056306

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

守永誠治教授退任記念号にあたって

平成4年3月、守永誠治教授が定年を迎えられ、慶應義塾大学を退職された。守永教授は、昭和30年に慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程の修了とともに、青山学院大学経済学部へ奉職され、経営学部の創設とともに同学部に移られた。昭和44年には教授に就任されたが、昭和62年に慶應義塾大学へ商学部教授としてお迎えした。長らくご勤務になった学校からお移りいただくのはなかなか大変なことであるが、守永教授は商学部の招聘に応じられ、爾来、慶應義塾の研究・教育水準の向上に多大な寄与をしていただいた。

専攻の会計学分野において、守永教授は多数の著書と論文を公にされ、斯学の発展に大きな足跡を残されてきた。昭和63年には、『非営利組織体会計の研究』によって慶應義塾大学から商学博士号を受けておられる。また、日本経営診断学会、税務会計研究学会、経営学会国際連合など、多くの学会の理事そのほかの役職や、政府関係の審議会などの委員として、社会的な活躍をしてこられた。

個人的に私は、守永教授が慶應義塾へ着任の直後にされた報告に感じ入ったことを覚えている。学部のスタッフによる研究会での報告で、「社会福祉会計制度の展開」というタイトルであったと記憶するが、会計学というよりも経済哲学というか、あるいは広く文化としてとらえる視点を披露され、会計学はこのような素養に立つものかと、深い印象を受けた。また、最終講義の演題も、「大航海時代から大公開時代へ」という、守永教授らしい気宇壮大な内容のもので、会場を埋めた研究者や学生に感銘を与えられた。

守永教授が商学部におられた期間は比較的短い期間ではあったが、学部の種々の面倒な役割をお願いした。教授が、自分は商学部の捨て石になるつもりでやっていると眩かれたことがあり、感謝の念にたえないところである。

慶應義塾大学を退かれて後、守永教授は、新設が予定されている静岡産業大学の設立準備委員長（学長予定者）として、開設に尽力されておられるとうかがっている。守永教授のご研究のさらなる展開とご健勝を祈念し、われわれの感謝と敬愛の証に『三田商学研究』の1巻を守永誠治教授退任記念号として捧げるものである。

平成4年12月

商学部長 藤 井 弥太郎